

## 後置修飾構造の定着度と教科書における配列

The Retention Rate of Post-modification Structures and its Arrangement in school Textbooks

山田 真衣  
Mai Yamada

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 英語文学・英語教育専修

キーワード：後置修飾，難易指標，教科書配列

Key words : Post-modification Structures, Difficulty Index, Arrangement in School Textbooks

## 1. 研究背景

金谷(2017)によると、中学校3年間で学んだ英文法の定着率は低い。高校生を対象に行った和文英訳テストの結果、過去分詞の後置修飾の正答率は全体で11.2%であり、上位校の高校生ですら25.0%であった。また、先行研究は、中学生にとって現在分詞と過去分詞の後置修飾は最も難しい英文法項目のひとつであると述べている。

## 2. 研究目的

まず、高校生を対象に後置修飾の和文英訳テストを実施して後置修飾の定着度を明らかにする。定着度に基づいて後置修飾の難易指標を作成する。次に、中学校英語教科書における後置修飾の登場順序と難易指標を照合することによって、教科書における後置修飾の配列は生徒の定着状況を配慮しているかを検討する。

## 3. 調査方法

現在分詞と過去分詞の後置修飾を SPR, SPA, OPR, OPA+A, OPA-A の5種類に分類した(表1)。SPRは現在分詞が主節内主語を修飾する場合、SPAは過去分詞が主節内主語を修飾する場合、OPRは現在分詞が主節内目的語を修飾する場合、OPA+Aは過去分詞が主節内目的語を修飾し動作主がある場合、OPA-Aは過去分詞が主節内目的語を修飾し動作主がない場合を指す。この分類を元に和文英訳テストを作成し、高校1年生91名を対象に実施した。テストの結果を分析し、5種類の難易指標を明らかにし、平成元年度に改訂された学習指導要領に沿って作成された6社の中学校英語教科書(以下、元年教科書)と平成20年度に改訂された

学習指導要領に沿って作成された6社の中学校英語教科書(以下、20年教科書)の後置修飾の登場順番と出現回数を調査して、生徒の定着状況に配慮した配列になっているかを検討した。

また、後置修飾を理解させるためには、後置修飾の使用に必然性のある文が教科書に設定されていることが大切だ。Loschky&Bley-Vromau(1993)は、task-essentialnessとは、目標とする文構造の使用が必然となるタスクだと述べている。必然性の強さから、task-naturalness, task-utility, task-essentialnessの3種類に分かれる。task-essentialnessとは、タスクを完成させるためには目標とする文構造の使用が必然となるタスクである。これが最も習得を促進するタスクであると考えられる。その観点に立つと、教科書は豊かな文脈で構成し、task-essentialnessを持つことが望ましい。以下に、task-essentialnessが描かれている文脈と描かれていない文脈の例を挙げる。

task-essentialness を描かれている文脈

Kenji: Look at that boy **crossing the street at the red light**. He shouldn't do that.  
Nancy: No, he shouldn't. But some people do.

例1 元年教科書 Sunshine (p.30)

男の子がたくさんいる場合、OPRを使いどの男の子であるか明確に限定するため、後置修飾の使用が必然的である。

task-essentialness を描かれていない文脈

Tina: Do you have any photos of your students?  
Ms. Sarim: Yes, here they are. The children studying here are my students.

例 2 20 年教科書 Columbus21 (p. 46)

この文脈では、後置修飾の文の代わりに They are my students. などの文を使うことが可能である。よって、必然性が描かれていない文脈である。

task-essentialness とは、目標とする文構造の使用が必然となるタスクだと述べている。よって、教科書は豊かな文脈で構成し、task-essentialness を持つことが望ましい。

表 1. 現在分詞と過去分詞の 5 種類のタイプ

タイプ	例 文
SPR (Subject Present Participle)	The nurse <i>kissing the doctor</i> treats the patient.
SPA (Subject Past Participle)	The nurse <i>kissed by the doctor</i> treats the patient.
OPR (Object Present Participle)	The doctor treats the patient <i>kissing the nurse</i> .
OPA+A (Object Past Participle with Agent)	The doctor treats the patient <i>kissed by the nurse</i> .
OPA-A (Object Past Participle without Agent)	The cat sees the monkey <i>painted in the picture</i> .

Izumi (2003) を基に一部改編

表 2 和文英訳テスト

SPR	その馬をハグしているそのライオンはその牛を蹴る。 (The lion hugging the horse kicks the cow. )
SPA	その馬によってハグされるそのライオンはその牛を蹴る。 (The lion hugged by the horse kicks the cow. )
OPR	その牛はそのライオンをハグしているその馬を蹴る。 (The cow kicks the horse hugging the lion. )
OPA+A	その牛はそのライオンによってハグされるその馬を蹴る。

	(The cow kicks the horse hugged by the lion. )
OPA-A	その牛はその絵に描かれたその馬を見る。 (The cow sees the horse painted in the picture. )

#### 4. 結果と考察

5 種類の後置修飾の難易指標は、 $[OPR] > [OPA+A] > [SPR-SPA]$  である。したがって、OPA-A と OPR の難易は等しく、OPA-A と OPR は、OPA+A SPR>SPA より前に配列するべきであると考えられる。また、SPR は SPA より前に配列するべきであるが、SPR が登場しない場合は、OPA+A と SPA の難易は等しいため、配列順序は問わない。

先行研究において和文英訳テストで最も正答平均点が低かったのは SPA であったが、本研究でも難度が最も高いのは SPA という結果であった。さらに、誤答分析の結果からも SPA は生徒にとって定着するのが最も難しい後置修飾であることがわかった。その原因の一つは、元年教科書、そして 20 年教科書の中で、SPA が登場する教科書はないからだ。生徒にとっては教科書を通して SPA を学習する機会が与えられていないことになる。

教科書と 5 種類の後置修飾の難易指標との照合結果は、元年教科書では、6 社中 1 社(EVERYDAY ENGLISH)が一致しなかった。20 年教科書では、6 社中 2 社(ONE WORLD, TOTAL ENGLISH)が一致しなかった。

後置修飾の配列の視点から判断すると、元年教科書と 20 年教科書の多くは、5 種類の後置修飾の難易指標とは一致していた。しかし、それは教科書に登場している後置修飾の種類が少ないためであることがわかった。したがって、難易指標に基づき、また考慮しながら教科書作成を行っているとは言えない。

文脈を構成する文の数を元年教科書と 20 年教科書と比べると、20 年教科書では 1 冊あたり平均で 8.00 文も減少している。このことから task essentialness の観点からは、20 年教科書は、後置修飾の機能を生徒が理解しやすい文脈が構成されにくいことが明らかになった。

#### 5. 結論

本研究を通して明らかになったのは、以下の 2 点である。

1) 5 種類の後置修飾の難易指標は、 $[OPR] > [OPA+A] > [SPR-SPA]$

である。

- 2) 後置修飾の配列の視点から判断すると、元年教科書と20年教科書の多くは、5種類の後置修飾の難易種類と一致してはいるが、それは教科書に登場している後置修飾の種類が少ないためである。したがって、難易指標に基づき、また考慮しながら教科書が作成されているとは言えない。

## 5. 今後の課題

- 1) 現在分詞の後置修飾には現在進行形の習得、過去分詞の後置修飾には受動態の習得がそれぞれ前提となる。本研究の結果から後置習得の定着率が低いことが明らかになった。前提となる現在進行形と受動態の定着状況を確認する必要がある。
- 2) 諸外国の生徒の後置修飾の難易指標を調べ、諸外国の教科書の配列を分析する。

## 主要参考文献

- [1] Izumi, S. (2003). Processing difficulty in comprehension and production of relative clauses by learners of English as a second language. *Language Learning*, 53, 285-323
- [2] Loschky & Bley-Vroman, R. (1993). Grammar and task-based methodology. In G. Crookes and S. Gass (Eds.), *Tasks and language learning: Integrating theory and practice* (pp. 123-67). Clevedon, Avon: Multilingual Matters.
- [3] 金谷憲. (2017). 『高校生は中学英語を使いこせるのか? - 基礎定着調査で見た高校生の英語力 -』. アルク